

# 京の伝統芸能と その衣裳・用具の 製作を支える人々

第2弾

Kyoto's traditional performing arts and of the clothing and equipment the people behind the production.Part2

嵯峨大念佛狂言

狂言

千本ゑんま堂大念佛狂言

# 競演



嵯峨大念佛狂言 演目「釈迦如来」より



千本ゑんま堂大念佛狂言 演目「寺ゆずり」より

2023(令和5年)

11月18日(土) 13:00-17:00

会場

清凉寺境内 嵯峨狂言堂

お席に限りがございますので、お早めにお越しください。

観覧無料

雨天決行  
荒天中止

当日プログラム

- 01 釈迦如来  
嵯峨大念佛狂言
- 02 寺ゆずり  
千本ゑんま堂大念佛狂言
- 03 土蜘蛛  
嵯峨大念佛狂言
- 04 2大土蜘蛛登場  
嵯峨&千本ゑんま堂

## 夢の共演！二者の土蜘蛛登場！

嵯峨狂言と千本ゑんま堂狂言、それぞれの土蜘蛛が揃って登場いたします。面や衣裳、所作の違いを競べられる初めての試みです。嵯峨狂言では衣裳を新調し、新しい土蜘蛛がご覧になれます。



嵯峨大念佛狂言「土蜘蛛」



千本ゑんま堂大念佛狂言「土蜘蛛」

主催 嵯峨大念佛狂言保存会

協力

千本ゑんま堂大念佛狂言保存会  
佛教学宗教文化ミュージアム 京都市

文化庁  
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

本事業は、令和5年度地域文化財総合活用推進事業として助成を受けて実施する事業です。

# 京の伝統芸能と その衣裳・用具の 製作を支える人々

## 第2弾

Kyoto's traditional performing arts and of the clothing and equipment the people behind the production.Part2

この度、「京の伝統芸能とその衣裳・用具の製作を支える人々」のイベント第2弾として、嵯峨大念佛狂言と千本ゑんま堂大念佛狂言のコラボ共演が実現しました。

嵯峨狂言は一切セリフがなく身振り手振りだけで芝居をするのに対し、千本ゑんま堂狂言はセリフがあることが特徴です。

今回は、その2つの狂言で共通の演目である『土蜘蛛』の蜘蛛が揃って登場します。ぜひご期待ください。

## 嵯峨大念佛狂言とは

Saga dainenbutsu kyogen



京都市の西、嵯峨釈迦堂の名で親しまれている古刹・清涼寺の境内で執り行われる民俗芸能です。すべての役者が面を着け、セリフがなく、身振り手振りだけで芝居が進行する点に大きな特徴があり、現在は約二十番の演目が残されています。

その歴史は古く、言い伝えでは鎌倉時代に融通念仏をひろめた円覚上人導御の創始とされています。資料から見ても、嵯峨大念佛狂言には室町時代(享禄2(1529)年)の銘を持つ面が伝わっており、すでに500年近い歴史を有していると考えられます。この他にも、桃山時代の優秀な面打師であった喜兵衛の刻銘を持つ女面《深井》や、和宮降嫁の際に宮中の女官としてその説得にあたった高野房子の菩提を弔うために奉納された装束など、美術史的にも宗教史的にも価値の高い数々の資料が伝わっています。昭和61(1986)年、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

演目は能楽的なカタモンと狂言仕立てのコミカルな要素を持ったヤワラカモンに分けられ、なかでも『釈迦如来』は嵯峨狂言のみの演目として注目されており、また『愛宕詣』は、嵯峨狂言堂舞台から西北にそびえる愛宕山を眺めながら演じる嵯峨狂言ならではの演目となっています。狂言のある清涼寺を舞台とした『百萬』も17年振りに披露するなど、若手育成にも力をいれています。

平成27(2015)年の雨漏りが契機となり、各方面に狂言堂修復の相談をしたことが始まりで、文化庁、京都府、京都市の助成を受けながら同年11月に修復工事が開始され、平成30(2018)年9月末に落慶の運びとなりました。

今回は、狂言堂修復に続き、老朽化していた衣裳や道具類の新調事業を令和3(2022)年に実施したものをお披露目公演として企画されたものです。

## 千本ゑんま堂大念佛狂言とは

Senbon enmado dainenbutsu kyogen

千本ゑんま堂狂言は上京区引接寺で定覚上人が布教のため、大念佛会を始めたことが起こりと伝えられ、「ゑんまどうの狂言はだーれが先は一じめた でっかい坊主が は一じめた」とわらべ唄の中にも紹介され、今も唄い継がれています。その後一時中断しましたが、鎌倉時代の文永(1264~1275)年間に如輪上人により再興し、室町時代には隆盛を極めました。天正2(1574)年、織田信長が上杉謙信に下された狩野永徳筆の洛中洛外図屏風(上杉本)の中にも、境内でこの狂言を演じる様子が描かれていることから、この頃にも親しまれた年中行事であったことが伺えます。

高度成長期にはテレビなど娯楽の普及により一時中断していましたが、昭和49(1974)年春に舞台として使用してきた狂言堂(江戸時代創建)が不審火により全焼してしまい、関係者や多くの人々がゑんま堂狂言の最後を覚悟しました。全焼したと思われた狂言面が幸運にも庫裏内で保管されており被害を受けていなかったことから、演者と面があれば復活できると、この火事をきっかけに保存会を結成し、翌年には復活公演を開くことが出来ました。昭和58(1983)年、京都市の登録無形民俗文化財として登録されました。

現在は仮設舞台での公演を毎年5月、本公演を開催しており全27を数える演目を上演、のべ1,500人以上のお客様に楽しんでいただいています。出張公演も積極的に取り組んでおり、今回は嵯峨狂言さんとの共演を楽しみにしています。



パネル展巡回中

ゼスト御池 寺町広場  
開催中~11/16(木)

京都精華大学 情報館  
11/21(火)~12/8日(金)

右京ふれあい文化会館  
12/9(土)~予定

お問い合わせは

・嵯峨大念佛狂言保存会

〒616-8447 京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町 46  
清涼寺(嵯峨釈迦堂)

075-861-0343

● www.sagakyogen.info

✉ vtmi19509@leto.eonet.ne.jp



清涼寺へのアクセス

- ・京都市営バス 28系統・91系統 嵯峨釈迦堂前下車 西へ徒歩2分
- ・京都バス 61-62-71-72-81系統 嵯峨釈迦堂前下車 西へ徒歩2分
- ・JR 嵯峨野線(山陰線) 嵯峨嵐山駅下車 北西へ徒歩15分
- ・嵐電 嵐山本線 嵐山駅下車 北へ徒歩15分

